

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名： 陸前高田市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

資料2別添1

令和7年1月27日

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(有)奥州交通	生出線	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・現在の運行を引き続き継続する。 ・時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努める。 【評価結果の反映状況】 現行の運行を継続した。令和6年度計画期間中のダイヤ改正は行わなかったが、公共交通マップ等には掲載して周知に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 生出線 【目標値】4.0人／回【実績値】4.8人／回【達成率】120% 補助対象となった。	現在の運行を引き続き継続する。
碁石観光(株)	広田線 広田線(平日) 広田半島線 広田半島線(平日)	広田線 【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努める。 ・高校生の登校について利便性向上を図る。 【評価結果の反映状況】 ・令和6年1月に商業施設近隣のバス停を移動し利用環境の改善に努めた。 ・令和6年4月1日ダイヤ改正でBRTなど地域幹線への接続を改善した。 ・以上2点について、時刻表や、陸前高田市地域公共交通マップの全戸配付を行い周知に努めた。 ・高校生の利用について、BRTへの接続、運賃の低廉化を引き続き実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 広田線(全日系統と平日系統の合計) 【目標値】4.0人／回【実績値】3.5人／回【達成率】87.5% 広田線は5.6人／回と目標値を上回り補助対象となった。コロナ禍明けによる移動需要の回復傾向が続いていることが原因と思われる。 広田線(平日)は0.4人／回と補助対象外となった。最寄りの地域間幹線に乗り継ぐことを前提とした経路・ダイヤとしているが、乗り継ぎが敬遠されたものと思われる。	ダイヤ改正に係る時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努めるとともに、経路の見直しやフリー乗降区間の拡大などを進めて利便性向上を図る。
		広田半島線 【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努める。 ・高校生の登校について利便性向上を図る。 【評価結果の反映状況】 ・令和6年1月に商業施設近隣のバス停を移動し利用環境の改善に努めた。 ・令和6年4月1日ダイヤ改正でBRTなど地域幹線への接続を改善した。 ・以上2点について、時刻表や、陸前高田市地域公共交通マップの全戸配付を行い周知に努めた。 ・高校生の利用について、登校時間帯の路線延長、運賃の低廉化を引き続き実施した。		C 広田半島線(全日系統と平日系統の合計) 【目標値】3.0人／回【実績値】1.8人／回【達成率】60% 広田半島線は5.0人／回と目標値を上回り補助対象となった。高校生の利用が底堅く推移していることが原因と思われる。 広田半島線(平日)は0.3人／回と補助対象外となった。最寄りの地域間幹線に乗り継ぐことを前提とした経路・ダイヤとしているが、乗り継ぎが敬遠されたものと思われる。	ダイヤ改正に係る時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努めるとともに、経路の見直しやフリー乗降区間の拡大などを進めて利便性向上を図る。
(株)気仙タクシー、高田タクシー(有)	長部今泉線 たかたコミュニティバス西部線 デマンド交通中平・坂下・小黒山エリア デマンド交通気仙エリア	長部今泉線 【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努める。 ・災害公営住宅などでデマンド交通気仙エリアと一体となったPRを行う。 【評価結果の反映状況】 ・令和6年4月1日ダイヤ改正でバス停を新設し利便性の向上につなげた。 ・時刻表や、陸前高田市地域公共交通マップの全戸配付を行い周知に努めた。また、内容を更新したデマンド交通気仙エリアのチラシを同時期に配布しPRに努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 長部今泉線 【目標値】2.0人／回【実績値】1.8人／回【達成率】90% 補助対象外となった。コロナ禍明けの移動需要の回復が続く実績値は市内路線の中では比較的高い方だが、沿線の利用人口の減少に加え、特に今泉地区ではグリーンスローモビリティとの競合が一部で見られる。	ダイヤ改正に係る時刻表の全戸配付をはじめとした周知に努めるとともに、小中学生など新たな利用者層の拡大に努める。 タクシー助成やグリーンスローモビリティといった他の移動手段との役割分担を図る。

(株)気仙タクシー、高田タクシー(有)	長部今泉線 たかたコミュニティバス西部線 デマンド交通中平・坂下・小黒山エリア デマンド交通気仙エリア	たかたコミュニティバス西部線 【前回(2事業年度前)の評価結果】 経路の異なる路線との統廃合、複雑な経路の整理、便数の調整を行い、運行の効率性を高めることとする。 【評価結果の反映状況】 ・市地域公共交通計画策定の過程で行った免許返納者等ヒアリングで寄せられた意見に基づき、令和6年4月1日改正で経路延長及びバス停の新設を行い、利便性の向上につなげた。 ・経路の整理や便数の調整について検討を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	たかたコミュニティバス西部線 【目標値】2.0人／便【実績値】0.6人／便【達成率】30% 補助対象外となった。コロナ禍明けの移動需要の回復が続いているが、便数が多く実績値の改善になかなかつなっていない。交通空白地をカバーするために経路や循環の回り方が複雑化しており、分かりにくいことも要因と思われる。	経路の重なる路線との統廃合や整理、便数の調整を検討する。路線の複雑さが解消しにくい場合は、区域運行への移行など運行形態変更の可能性についても検討する。
		デマンド交通中平・坂下・小黒山エリア 【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・本エリアに絞ってデマンド交通のPRを行い、登録者の掘り起こしと利用の拡大を図る。 ・計画運行回数と運行実績回数に大きく乖離が生じている現状を踏まえ、利用状況を詳細に分析し、一層の周知徹底による利用促進や、より利便性の高い運行方法への見直し、利用実態に即した運行計画の見直しを検討する。 【評価結果の反映状況】 ・内容を更新したデマンド交通本エリアのチラシを陸前高田市地域公共交通マップと同時期に配布しPRに努めた。 ・タクシー助成とのすみ分けについて検討を行った。				デマンド交通中平・坂下・小黒山エリア 【目標値】2.0人／便【実績値】1.0人／便【達成率】50% 運行割合30%未満となり補助対象外となった。対象エリアは市内でも人口の少ない地域で、登録が伸びていない上、利用はほぼ特定の個人となっている現状がある。	中平・坂下・小黒山エリアに絞ったデマンド交通のPRを実施し、利用の拡大を図るとともに、タクシー助成とのすみ分けを視野に見直しを検討する。
		デマンド交通気仙エリア 【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・災害公営住宅などで長部今泉線と一体となったPRを実施する。 ・計画運行回数と運行実績回数に大きく乖離が生じている現状を踏まえ、利用状況を詳細に分析し、一層の周知徹底による利用促進や、より利便性の高い運行方法への見直し、利用実態に即した運行計画の見直しを検討する。 【評価結果の反映状況】 ・内容を更新したデマンド交通本エリアのチラシを陸前高田市地域公共交通マップと同時期に配布しPRに努めた。 ・タクシー助成とのすみ分けについて検討を行った。			C	デマンド交通気仙エリア 【目標値】2.0人／便【実績値】1.4人／便【達成率】70% 運行割合30%未満となり補助対象外となった。年度が替わってから利用者数は回復傾向にあるが、タクシー助成との重複に加え、一部でグリーンスローモビリティに利用が流れる傾向がある。	気仙エリアに絞ったデマンド交通のPRを実施し、利用の拡大を図るとともに、他の移動手段との役割分担を踏まえた見直しを検討する。
(有)高田交通	デマンド交通小友・広田エリア	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・本エリアに絞ってデマンド交通のPRを行う。 ・出前講座などを通じて登録者に対する利用の働きかけに努める。 ・計画運行回数と運行実績回数に大きく乖離が生じている現状を踏まえ、利用状況を詳細に分析し、一層の周知徹底による利用促進や、より利便性の高い運行方法への見直し、利用実態に即した運行計画の見直しを検討する。 【評価結果の反映状況】 ・令和6年4月1日ダイヤ改正で、運行曜日の減とバス停の廃止を行い、運行の効率化につなげた。 ・内容を更新したデマンド交通本エリアのチラシを陸前高田市地域公共交通マップと同時期に配布し周知に努めた。 内容を更新したデマンド交通本エリアのチラシを陸前高田市地域公共交通マップと同時期に配布しPRに努めた。 ・タクシー助成とのすみ分けについて検討を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	デマンド交通小友・広田エリア 【目標値】2.5人／便【実績値】1.9人／便【達成率】76% 運行割合65%で補助対象となった。運行曜日を絞り計画運行便数が減ったため運行割合は高まったが、沿線の人口減も相まって全体的な利用は減少傾向にある。	運行曜日の減による影響を見極めながら事業を実施する。 ※事業者は令和7年4月から変更となる予定

※枠の大きさの変更は可能です。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月27日

協議会名：	陸前高田市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	陸前高田市は、岩手県沿岸部の最南端に位置し、北は大船渡市及び住田町、南は宮城県気仙沼市、西は一関市に接しており、総面積は231.94平方キロメートルである。 市内公共交通は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県交通(株)のバスターミナルやバス・タクシー事業者の車両の大半が流出するなど甚大な被害を受けた。その後、国の特定被災地域公共交通調査事業や復興交付金事業を活用しながら、路線バスや乗合タクシー、デマンド交通の運行を継続してきた。また、被災したJR大船渡線については、バス高速輸送システム(BRT)の導入による本復旧がなされたものである。 現在の市内公共交通網は、JR大船渡線BRTと地域間幹線1路線、複数の広域路線を幹線交通とし、公共交通の乗り継ぎ拠点である陸前高田駅を中心に、路線バスと乗合タクシーを放射状に配置して幹線と接続する枝線と位置づけ、デマンド交通や自家用有償旅客運送(グリーンスローモビリティ)、共助輸送サービスなどを幹線・枝線を補う移動手段と位置づけて展開しており、市地域公共交通計画に掲げる「地域ニーズと復興に合わせて地域公共交通を再編する」「使いやすい公共交通機関を整備する」という目標を目指して、持続可能な生活交通ネットワークの構築を進めているところである。